

納涼晩餐会を開催

火曜午餐会 8月例会

火曜午餐会の8月例会は、日頃の研修・研鑽の会を離れて一服の涼をと、第1火曜日の3日夕刻から納涼晩餐会として、場所を奈良ホテルに移して開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1テーブルの人数を減らしてアクリル板を設置。食事は特製弁当とノンアルコール飲料という異例の形での開催になったが、午餐会会員、ご同伴を合わせ39名が参集。ゲストのウクレレアーティスト・田中秦之介氏の演奏に耳を傾けながら、しばし猛暑を忘れて楽しいひと時を過ごした。

ウクレレによる「涙そうそう」のウエルカム演奏の中、参加者が着席し、18時開会。

開会の挨拶に立った豊澤副会長は参加者への謝辞を述べ、「コロナコロナで1年半が過ぎ、残念ながら経済倶楽部の行事もほとんど開催出来ない状況が続いています。ここに来てようやくワクチン接種が始まり、なんとか日常が戻るのではと期待しております。皆様方におかれましては、厳しい暑さとコロナに負けずに、どうかお元気でお過ごしいただきますよう祈念しております。このような状況ですので、本日は、残念ながらノンアルコールという事でお酒をお出しする事は出来ませんが、コロナが収まって、以前のように皆様と美味しいお酒で乾杯できる日が一日も早く来ることを願っております。」と挨拶。今回は、ノンアルコール飲料として、スパークリングワイン・赤ワイン・白ワイ

ン・パンチカクテル2種・ビール・ソフトドリンクをご準備頂いたが、乾杯には、夏らしく発砲するスパークリングワインがグラスに注がれた。

乾杯のご発声は箕輪副会長。「本来なら奈良市の条例通り『日本酒で乾杯!』とさせて頂きたいのですが、コロナで出来なくなりました。ただ、今日はノンアル

コール飲料を色々取り揃えて頂いておりますので十分楽しんで頂けるのではと思います。それでは、コロナの一日も早い収束を願い、経済倶楽部の行事が以前のように滞りなく行われ、皆様楽しんで頂ける日が来ることを待ち望むと共に、皆様のご健康とご多幸をお祈りして、乾杯!」

円卓を囲んでの食事は和洋折衷



の奈良ホテル特製弁当。いつものようにテーブルを回ってご歓談頂けないのは残念だったが、参加者の皆様にはマナーをお守り頂き、静かにお召し上がり頂いた。食事が落ち着いたところで、ウクレレアーティスト田中秦之介氏が登場。

1曲目は明るく陽気な曲をと「オーシャンゼリゼ」(1969年パリのシャンゼリゼ通りをモチーフとした歌曲)。2曲目「東京ブギウギ」(1947年笠置シズ子歌唱、戦後の日本を象徴する曲のひとつ)は、歌詞を「ならまちブギウギ」や「やまとブギウギ」と替え歌にして披露した。3曲目は、アーティスト活動を始めた4年前の誕生日、自分の為に作ったというオリジナル曲「Birthday」を演奏した。現在28歳の田中氏、人生について一人思い悩んだ時期もあったが、応援して下さる方や周囲に助けられている事に気づく事が出来た時、前に踏み出す勇気が出たという。その頃に作ったオリジナル曲「みつめなおす」を4曲

目として演奏、最後は、遠距離恋愛を描いた昭和の大ヒット曲「木綿のハンカチーフ」(1975年太田裕美歌唱)で演奏を終えた。

コロナ禍での納涼晩餐会は時間を短縮、名残惜しい中、19時30分に無事閉会した。



様を表現したとも言われている。

【田中秦之介氏】

奈良県生駒市出身。平群町在住。大阪芸術大学 音楽学科卒業。在学中、ベースを専攻し、様々なジャンルのリズムを学び、卒業後、ウクレレアーティストとして活動。関西を中心に演奏活動を行っている。ウクレレの楽しさを感じて頂ける「ウクレレ教室」の講師としても活躍中。

【ウクレレ】

ポルトガルからの移民が持ち込んだブラギーニャと呼ばれる楽器を起源とし、ハワイで独自に改良を重ねられて現在の形になったとされる。高級なものにはハワイ特産のコアの木が材料として用いられる。ウクレレという言葉はハワイ語で「飛び跳ねるノミ」という意味で、当時の人気奏者のあだ名から取られたとも、小さな楽器の上で奏者の指が目まぐるしく動く